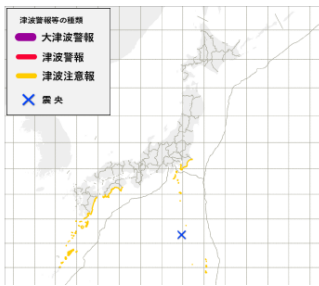
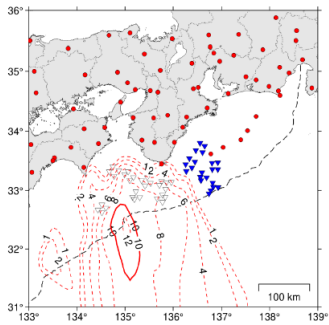






- ◇ 10月5日 令和5年10月5日11時00分頃の鳥島近海の地震について（第2報）  
 5日11時00分頃に発生した鳥島近海を震源とする地震の津波注意報は、津波が十分に減衰したため、13時15分に全て解除しました。伊豆諸島では、若干の海面変動が観測されておりますので、今後2.3時間程度は継続する可能性が高いと考えられます。海に入っの作業や釣り、海水浴などに際しては十分な留意が必要です。
- 【地震の概要】**  
**検知時刻**（最初に地震を検知した時刻）10月5日11時00分  
**発生時刻**（地震が発生した時刻）10月5日10時59分  
**マグニチュード** 6.5（暫定値：速報値の6.6から更新）  
**場所及び深さ** 鳥島近海 深さ17km（暫定値；速報値 深さ約10kmから更新）  
**発震機構** 東北東—西南西方向に張力軸を持つ正断層型で、フィリピン海プレート内で発生した地震（速報）  
**05日11時35分現在** 今回の地震発生後、震度1以上を観測した地震の発生なし  
**長周期地震動の観測状況** 階級1を観測した地域はなし
- ◇ 10月6日 南海トラフ地震関連解説情報について —最近の南海トラフ周辺の地殻活動—  
 現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時（注）と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。
- ◇ 10月9日 令和5年10月9日05時25分頃の鳥島近海の地震について  
 ◇ 10月9日 令和5年10月9日05時25分頃の鳥島近海の地震について（第2報）
- 【地震の概要】**  
**検知時刻**（最初に地震を検知した時刻）10月9日05時25分  
**発生時刻**（地震が発生した時刻）10月9日05時25分頃  
**マグニチュード** 不明（速報値）  
**場所及び深さ** 鳥島近海（父島の北西370km付近）ごく浅い  
**9日10時30分現在** この地震発生以降、震度1以上を観測した地震の発生なし  
**長周期地震動の観測状況** 階級1以上を観測した地域はなし
- 津波注意報を発表  
 10月9日08時24分発表
- 
- ◇ 10月10日 令和5年9月の地震活動及び火山活動について  
 ◇ 10月11日 エルニーニョ監視速報（No. 373）について  
 春からエルニーニョ現象が続いている。今後、冬の間はエルニーニョ現象が続く可能性が高い（90%）。
- ◇ 10月20日 地震・津波観測監視システム（DONET）の計画作業に伴う緊急地震速報等への影響について  
 図中に示した等値線は、DONETの観測点のうち潮岬沖から室戸岬沖に設置された、今会計朔作業予定のDONET2（▽）の観測データについて緊急地震速報への活用を停止した場合、緊急地震速報の発表が通常よりどの程度遅れるかを秒数で表したものです。
- 
- ◇ 10月20日 鳥島近海における火山の活動状況等について  
 ◇ 10月25日 11月2日（木）に緊急地震速報の訓練を行います～訓練参加機関をお知らせいたします～  
 11月5日は「津波防災の日」・「世界津波の日」です。この取組の一環として、令和5年11月2日（木）に、緊急地震速報の全国的な訓練を実施します。
- ◇ 10月30日 気象庁から第66次南極地域観測隊越冬隊長を派遣～気象庁から4年振6人目～  
 第163回南極地域観測統合推進本部総会において、第66次南極地域観測隊副隊長兼越冬隊長として藤田建（ふじた たつる）大気海洋部環境・海洋気象課主任技術専門官が選考されました。〔派遣期間（予定）令和6年12月～令和8年3月〕
- ◇ 11月1日 海洋気象観測船「啓風丸」による鳥島近海での軽石の採取について  
 10月20日、海上保安庁が実施した上空からの観測により、鳥島（火山名：伊豆鳥島）の西方約50kmの海域において、軽石とみられる浮遊物が点在しているのが確認されたことを受け、気象庁では、日本の南の海上での海洋観測を終えた海洋気象観測船

「啓風丸」を現場海域に向かわせ、10月27日から31日にかけて軽石の観測を行いました。この結果、10月27日、28日及び31日に、鳥島の南西約100kmの海域において、海面に点在している軽石を確認するとともに、それらの一部を採取しました（別紙）。今後、啓風丸は11月2日に東京へ帰港する予定です。採取した軽石については、国立大学法人東京大学地震研究所及び国立研究開発法人産業技術総合研究所に提供し、化学組成の分析等を実施いただく予定です。

なお、気象衛星ひまわりの観測では、今回軽石を採取した付近の活火山（伊豆鳥島、嬬婦岩（そうふがん））の周辺において、噴煙等は観測されていません。

- ◇ 11月2日 気象庁と横浜国立大学との台風研究等に係る包括的連携協定の締結について
- ◇ 11月2日 障害者差別解消法に基づく気象庁における「対応要領」及び国土交通省所管事業における「対応指針」の改正について～障害を理由とする差別の解消の一層の推進を図ります～

気象庁では、来年4月に施行される改正障害者差別解消法及び同法に基づく基本方針の改正を踏まえて、当庁における対応要領を改正しました。また、国土交通省所管事業における対応指針が改正され予報業務許可事業者の具体的な対応例が追加されました。

- ◇ 11月6日 有珠山の噴火警戒レベルの判定基準の改定について
- ◇ 11月7日 地震・津波観測監視システム（DONET）の緊急地震速報等への活用再開について
- ◇ 11月8日 南海トラフ地震関連解説情報について ー最近の南海トラフ周辺の地殻活動ー

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時（注）と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

- ◇ 11月9日 令和5年度第3回「気象データのビジネス活用セミナー（データ解説編：ナウキャスト及び短時間予報）」の開催について
- ◇ 11月9日 令和5年10月の地震活動及び火山活動について
- ◇ 11月9日 鳥島近海で採取した軽石の分析結果について

気象庁の海洋気象観測船「啓風丸」は、10月27日、28日及び31日に、鳥島の南西約100kmの海域において軽石を採取しました（令和5年11月1日報道発表の通り）。採取した軽石に関して、分析を依頼しました国立大学法人東京大学地震研究所及び国立研究開発法人産業技術総合研究所による分析結果ができましたのでお知らせします。

- 10月27日12時頃に採取した白色の軽石
  - ・最近の火山活動で生産された軽石と考えられる。
  - ・化学組成は、鳥島を含む伊豆弧火山フロントの西方に連なる背弧リフト帯（鳥島凹地等）に分布する流紋岩の特徴と類似しており、最近火山活動が確認されている福徳岡ノ場、硫黄島、海德海山の噴出物とは異なる。

- 10月27日23時頃、28日7時頃、31日9時頃に採取された灰色の軽石
  - ・形状等からみて長期間漂流していたものと推定され、最近の火山活動で生産された軽石ではないと考えられる。

今回見つかった軽石と周辺の火山活動や地震活動との関連については現時点では不明ですが、気象庁では引き続き火山活動及び地震活動について監視し、変化が認められた場合には噴火警報等を発表してまいります。

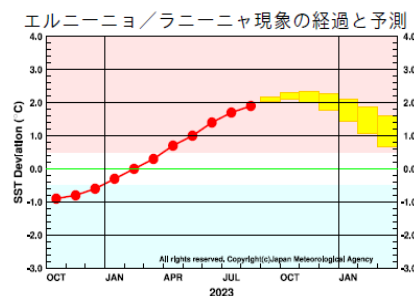
分析結果の詳細については両機関のホームページをご覧ください。

- ・東京大学地震研究所 <https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/eq/20272/>
- ・産業技術総合研究所

<https://www.gsj.jp/hazards/volcano/index.html>

- ◇ 11月10日 エルニーニョ監視速報（No.374）について  
今年の春に発生したエルニーニョ現象が続いています。今後、来年の春にかけてエルニーニョ現象が続く可能性が高い（80%）と予測しています。

図 エルニーニョ監視海域の海面水温の基準値との差の5ヶ月移動平均値



- ◇ 11月10日 令和5年度気象庁関係補正予算概要
- ◇ 11月15日 巨大地震対策オンライン講演会を開催します～強い揺れ・ゆっくりとした大きな揺れ・津波に備える～  
日時：ライブ配信：令和5年12月16日（土） 13時30分～16時00分

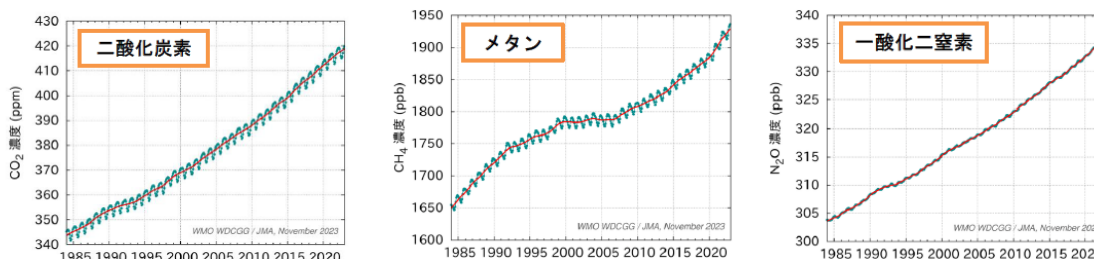
- 講演の内容：第1講座「地震・津波の基礎知識と気象庁の情報」  
 第2講座「津波災害の実態と現在に向けての取組」  
 第3講座「長周期地震動のメカニズムと高層建築の対策」  
 第4講座「巨大地震・津波の被害想定と必要な備え・行動」

- ◇ 11月15日 世界の主要温室効果ガス濃度は観測史上最高を更新  
 大気中の主要な温室効果ガスである二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素の2022年の世界平均濃度は、いずれも観測史上最高を更新しました。

表 主要温室効果ガスの2022年の世界平均濃度と増加量

	二酸化炭素 CO <sub>2</sub>	メタン CH <sub>4</sub>	一酸化二窒素 N <sub>2</sub> O
2022年の世界平均濃度	417.9±0.2 ppm	1923±2 ppb	335.8±0.1 ppb
前年からの増加量	2.2 ppm	16 ppb	1.4 ppb
最近10年間の平均年増加量	2.46 ppm/年	10.2 ppb/年	1.05 ppb/年

注：ppmは大気中の分子100万個中、ppbは10億個中にある対象物質の個数を表す単位。



- ◇ 11月20日 令和5年11月20日15時30分頃のウラウン火山（パプアニューギニア）の大規模噴火について  
 ◇ 11月20日 令和5年11月20日15時30分頃のウラウン火山（パプアニューギニア）の大規模噴火について（第2報）

火山の噴火の概要

噴火発生日時 11月20日15時30分頃（日本時間）  
 火山名 ウラウン火山  
 噴煙高度 約50,000フィート（約15,000メートル）

- ◇ 11月29日 「防災気象情報に関する検討会」（第5回）の開催について  
 ◇ 11月29日 今年の南極オゾンホールは最近10年間で3番目の大きさ

2023年の南極オゾンホールは、9月21日に今年最大の面積2,590万km<sup>2</sup>となりました。オゾンホールの年最大面積は2000年頃から減少傾向が続いてきましたが、今年を含め2020年以降は南極オゾンホールの年最大面積の大きい年が続いています。今年最大の面積は南極大陸の約1.9倍で、最近10年間で3番目に大きい値です

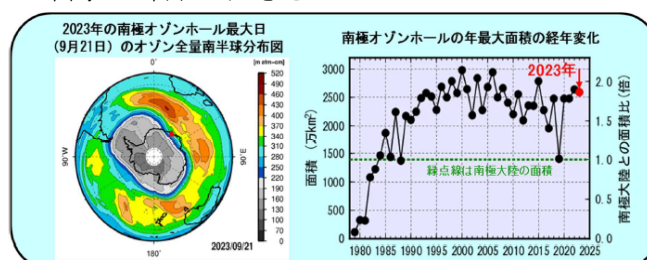


図 南極オゾンホールの2023年の最大面積日のオゾン全量分布図と年最大面積の経年変化  
 米国航空宇宙局（NASA）提供の衛星観測データをもとに気象庁で作成。

オゾン層破壊物質の大気中濃度は緩やかに減少していることから、これは気象要因によるものと考えられ、特に今年は9月に南極上空で著しい低温域が例年より広く分布したことにより、オゾン層の破壊が促進されたと考えられます。

- ◇ 11月29日 ひまわり9号の保守作業に伴う観測休止の予定について  
 ◇ 11月30日 予報業務の許可に関する審査基準等を改正しました

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/minkan/kyoka.html>

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

◆ 10月の天候

- 気温は、北日本でかなり高く、沖縄・奄美で高くなりました

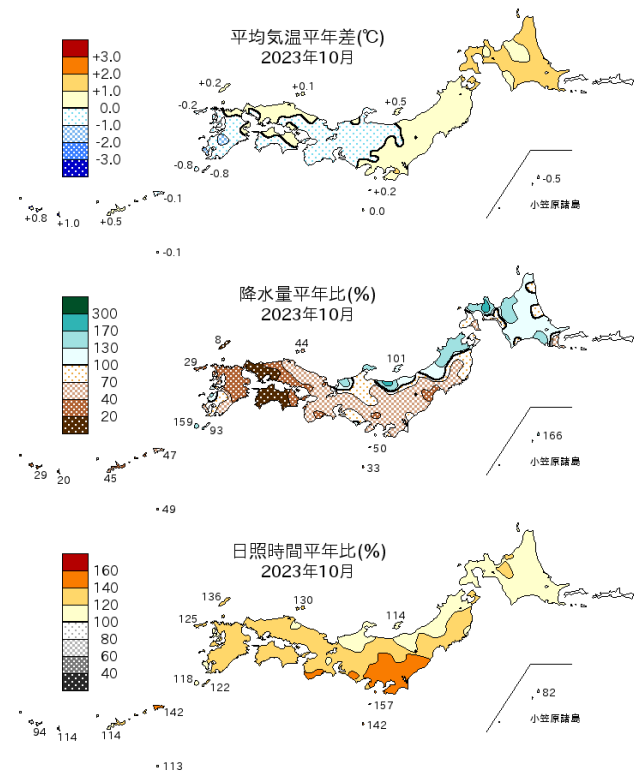
きおんは、日本近海の海面水温が顕著に高かった影響や、寒気の影響が一時的だった北日本でかなり高く、暖かい空気に覆われやすかった沖縄・奄美で高くなりました。

- 降水量は、西日本日本海側と沖縄・奄美でかなり少なく、西日本太平洋側で少なかった一方、北・東日本日本海側で多くなりました

降水量は、低気圧の影響を受けにくかった西日本日本海側と沖縄・奄美でかなり少なく、西日本太平洋側で少なくなりました。一方、低気圧や低気圧通過後の寒気の影響を受けやすかった北・東日本日本海側で多くなりました。

- 日照時間は、全国的に多く、特に北・西日本日本海側と北・東・西日本太平洋側でかなり多くなりました

高気圧に覆われ晴れた日が多かったため、日照時間は全国的に多く、北・西日本日本海側と北・東・西日本太平洋側でかなり多くなりました。



◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

◆ 11月の天候

- 気温は北日本でかなり高く、東・西日本で高くなりました

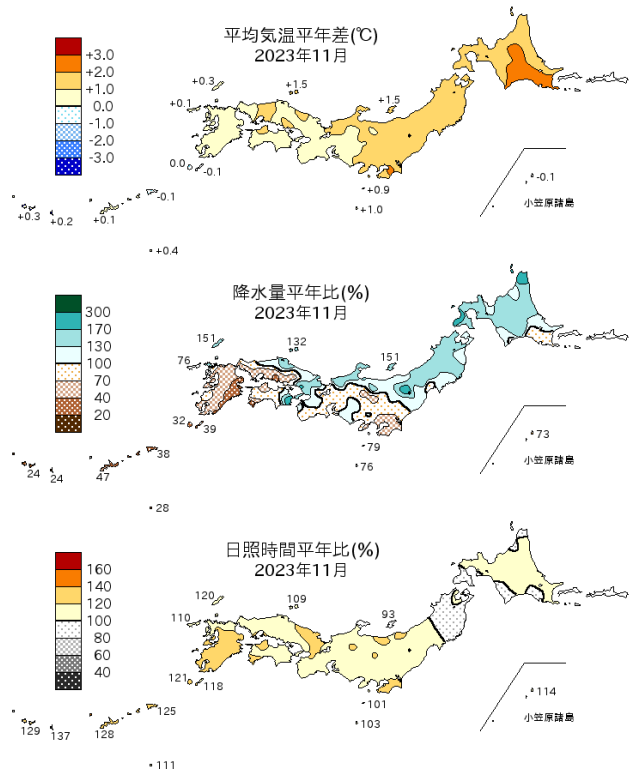
気温は、寒気の影響を受けにくく、暖かい空気が流れ込んだ時期もあったため、北日本でかなり高く、東・西日本で高くなりました。

- 北日本日本海側の降水量はかなり多かった一方、西日本太平洋側の日照時間はかなり多くなりました

低気圧や寒気の影響を受けやすかったため、北日本日本海側の降水量はかなり多くなりました。一方、移動性高気圧に覆われやすかったため、日照時間は西日本太平洋側でかなり多く、東・西日本日本海側と東日本太平洋側で多くなりました。

- 沖縄・奄美の降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多くなりました

沖縄・奄美では、中国大陸から張り出した高気圧に覆われやすく、低気圧や前線の影響を受けにくかったため、降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多くなりました。



※気象庁ホームページから抜粋